

令和6年度鎌ヶ谷市献血推進協議会 会議録

1 開催日時

令和7年2月21日（金） 13:00～14:00

2 開催場所

総合福祉保健センター4階 会議室

3 議題

- (1) 令和6年度鎌ヶ谷市献血事業実績について
- (2) 令和7年度鎌ヶ谷市献血実施計画について
- (3) 令和7年度千葉県献血推進計画について

4 出席方

(1) 委員

大石孝委員（1号委員）、杉戸一寿委員（2号委員）、皆川洋子委員、
佐々木和則委員、渡部臣道委員、川田由美子委員（3号委員）

(2) 千葉県赤十字血液センター

大橋事業推進一副部長
大竹事業推進一部 献血推進課主事

(3) 事務局

本間健康増進課長、舟波主幹、仲村係長、青木保健師、藤崎保健師

5 欠席方

野村直人委員、渡邊輝江委員、佐藤雪子委員、佐々木純委員
（うち3名より委任状提出あり）

6 傍聴人

0人

（事務局）

今回の議長は、鎌ヶ谷市献血推進協議会設置要綱第5条により会長が務めることとなっております。これ以降の議題につきましては、大石会長に議事進行をお願いできればと思います。

よろしく願いいたします。

(大石会長)

どうぞよろしく申し上げます。今回の会長の大石です。

それでは早速お手元の会議次第に基づき、議事進行させていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。

まず、会議録署名についてですが、事務局から説明願います。

(事務局)

議事録署名人は、後日事務局で本日の会議記録を作成した後、署名をいただく方となります。当協議会の議事録は、概要と発言方名の記載する形としております。また、署名人を名簿順としておりますので、今回はご出席の皆川委員、佐々木和則委員をお願いしたいと思います。なお、ご承認いただかましたら、会議録作成のため、発言の内容は録音させていただきます。

会議録署名人については名簿順に皆川委員、佐々木和則委員に依頼し、議事録は概要と発言方名を記載する形で異議なし

(事務局)

本協議会は、「鎌ヶ谷市におかる審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、法令または条例の規定により会議が非公開とされる場合を除きまして、原則公開となっておりますので、公開とさせていただければと思います。

(大石会長)

ご異議はありませんか。本日傍聴の希望ありませんか。

異議なし。傍聴希望なし。

(大石会長)

では、議題1 令和6年度鎌ヶ谷市献血事業実績について説明願います。

(事務局)

今年度は3月にあと2回献血を予定しておりますが、昨年度の1月末の実績が290名のところ、今年度はすでに327名にご協力をいただいております。市役所での献血は一日当たりの受付人数の目標値を60名としておりますが、すべての回で70名以上の受付があり、献血も6月65名、9月77名、12月64名にご協力いただくことができました。これも、日頃からの温かいボランティア活動のご協力あつてのことであり、心からお礼申し上げます。

次に、(2)事業所等主催事業実施状況をご覧ください。今年度は、中央自動車大学校、中西産業株式会社、鎌ヶ谷総合病院、東邦鎌谷病院でそれぞれ半

日献血を実施しております。昨年度実績が92名で、今年度実績が170名となりました。ご協力いただきました企業や病院の皆様をはじめ、赤十字血液センターの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

また、今年度は、新たに市役所での献血の際に献血協力方アンケートを実施しました。その結果を資料「献血協力方アンケート結果」にて報告します。アンケートは、献血協力方の確保のため、参加方の基本属性や献血のきっかけを聞き取り、参加方層の明確化や各種広報活動の効果検証を行うことで、今後の事業におかる効果的なアプローチを検討するために実施しました。表1が実施概要です。表2をご覧ください。採血終了後にアンケートの声掛けを行い、9月は受付人数の69.9パーセント、12月は受付人数の91.7パーセントの方にご回答をいただきました。

裏面2ページ目をご覧ください。アンケート回答方の属性では、アンケート回答方のうち6～7割が鎌ケ谷市在住方で、年代をみると50代が3～4割と最も多く、次いで40代が2割となっています。30代と60代は10名前後で、20代がいずれの回も最も少ないのですが、9月はロータリークラブのお声がかもあり回答方に占める20代の割合が13.8パーセントとなりました。千葉県赤十字血液センター献血推進課による献血実施結果報告によれば、9月と12月ともに受付人数に男女差はほとんどなく、毎回男女同数の受付となっています。また、9月は受付人数のうち26.5パーセントが公務員で、毎回20～30名程度、市職員の協力を得ています。

3ページ中ほどから、(3)献血に関することをまとめました。

①献血回数について、2回目以上の方が9割ほどでした。鎌ケ谷市役所での献血は初めてが全体の3割ほどで、鎌ケ谷市役所での献血が初めての方のうち25～40パーセントが献血自体がはじめての方で鎌ケ谷市役所での献血が献血デビューの機会となっていると推察されました。

②献血を知った情報媒体では、赤十字からのメールが最も多く、ホームページからの情報も多いことがわかりました。友人・知人からと回答した方の中にはライオンズクラブからの声掛けが挙がっており、声掛けのご協力が1人1人の行動につながっていることがわかります。12月は、ポスターが9月の2倍ほど、放送（鎌ケ谷市・イオン・アクロスモール・イトーヨーカドー等で実施）が9月の3倍ほど、SNSが9月の2倍ほどとなっており、各種の広報活動がより認知されやすくなっていると考えております。

③献血に来場しようと思ったきっかけは、「誰かの役に立てるから」が最も多く、次いで「会場が近くだったから」が挙げられていました。「血液検査ができるから」といった自身の健康管理への有用性も理由に挙がりました。「呼び込みで声をかけられたから」、「プレゼントがもらえるから」、「広告を見たから」等を来場のきっかけにした方は9月に比べて12月の方が多く、赤十字奉仕団や血液センターによる当日の呼び込みや事前の広報活動が来場のきっかけに影響を与えていると推察しております。

④予約方法は、予約をしていない（当日参加）が約30名（45パーセント程）を占めており、次いでラブレッドアプリが約20名（35パーセント程）でした。アプリでは予約時に受付時間帯の指定が可能で、当日受付よりも優先

してご案内が可能であるため、参加方の利便性を高めるためにも事前の予約を引き続き促していく必要があると考えております。

⑤採血までの待ち時間は、概ね1時間以内でした。9月は受付人数が83名と多く、1時間以上であったものが4名いました。待ち時間は、受付人数により影響を受けるため、呼び込み等で受付人数が少ない時間帯をご案内する等の工夫を継続していきます。

⑥スタッフの対応は、大変良かった、良かったの評価が9割から10割と概ね満足いただける対応ができたと考えています。12月で大変不満と回答した方は、採血時の対応（順番が後回しにされた）が不満の主な理由でした。その他、12月の自由記述欄に動線に関するご意見があり、動線の確保や掲示・案内を工夫することが必要と考えています。

⑦来場方法は、車・タクシーが約4割（20～30名程）で最も多く、徒歩と自転車を合わせて、車・タクシーと同数程度でした。自由記述欄では、駐車場が満車で駐車に苦労した等の意見がありました。12月は議会会期中であったこと等も影響したと考えられ、例年この時期の開催のため車・タクシー以外での来場を促すことも検討したいと思っております。

7ページの（4）ご意見、ご要望、ご感想などは、自由記載で回答していただいた結果です。市役所での献血は近場で来やすいといった感想のほか、アンケート依頼のタイミング等についてご意見が寄せられました。アンケート依頼のタイミングについては、12月3日（火）の午後には日赤関係方と相談し、献血方が一息ついた後に声掛けをするように改善することができました。

続いて、8ページ目です。若年層の参加を促すことを目的に、20代参加方のアンケートの分析を行いました。その結果、献血自体が鎌ヶ谷市役所で初めてと答える方が約6割（全年代の分析では約3割）で、20代は鎌ヶ谷市役所での献血が献血デビューの機会となっていると考えられました。献血を知る方法として、知人・友人からの誘いや放送（鎌ヶ谷市役所）と答える方が多く、20代の横のつながりに着目した勧誘についても検討する余地があると考えております。また、予約方法の項目への回答で予約をしていない方が約7割であったことから、献血日に来庁してその場で協力といった方が多いと推察されます。市役所内での放送は献血1週間前から当日まで放送しており、耳に残りやすい放送内容となるよう工夫を行うこと、ポスターは来庁時に目に入りやすい場所で掲示すること、献血を実施していることがわかりやすいような声掛けを行うことが有効と考えています。献血日時をお知らせするポスターは市役所と総合福祉保健センター以外にも生涯学習センター（まなびいプラザ）、東部学習センター、各公民館に掲示を依頼していますが、若年層がより利用する可能性の高い施設（図書館やスポーツ施設等）への掲示依頼などを進めていきたいと考えております。一方、若年層に目につきやすいと考えられるSNS（LINE、X、FACEBOOK、ごみアプリ等）や新鎌ヶ谷駅自由通路や市民課前の電光掲示板（約1か月前から実施）での情報収集を挙げた方は0名で、引き続きこれらの広報活動を継続し、若年層が献血を知るきっかけとなるよう努めていきます。

献血協力方アンケート結果のご報告は、以上となります。

(大石会長)

ただいまの議題1に対して、ご質問はございませんか。ないということで、それでは、議題2令和7年度鎌ケ谷市献血実施計画及び議題3令和7年度千葉県献血推進計画について事務局説明を願います。

(事務局)

令和7年度鎌ケ谷市献血事業実施計画をご覧ください。市主催事業については昨年度同様の会場で同様の回数で実施を予定しております。各協力団体の皆様におかれましては、令和7年度もご協力の程、よろしくお願いいたします。事業所等での実施も今年度同様の実施場所・回数となる見込みです。

続いて、令和7年度鎌ケ谷市献血推進計画をご覧ください。市献血推進計画は千葉県献血推進計画に基づき、計画を作成しているものです。千葉県推進計画の資料5ページ目2市町村別献血目標の表中保健所名4行目習志野のなかに鎌ケ谷市の献血目標がございます。県の推進計画において、鎌ケ谷市は200ミリリットル献血33名、400ミリリットル献血1,064名、計1,097名の目標となっております。一方で、昨年度の協議会会議の中で、県目標と実績との乖離が議論になり、実績ベースで献血量を確保していくことが重要との考えに至ったこともあり、市献血推進計画のなかでは、今年度の実績を踏まえ、令和7年度の献血目標を200ミリリットル献血50名、400ミリリットル献血600名、計650名としました。今年度は、現時点で497名のご協力をいただいております。あと2回分の献血の実績を加えると約580名になる推計しておりますので、令和7年度目標は今年度より約70名の増加となります。保健所管内におかる献血目標数に対して、鎌ケ谷市の貢献比率を計算したところ、令和5年度は200ミリリットル献血14.8パーセント(24名)、400ミリリットル献血8.4パーセント(419名)でしたが、令和7年度の目標が達成できれば、令和7年度は200ミリリットル献血29.6パーセント、400ミリリットル献血10.9パーセントとなる推計をしております。

献血場所ごとの目標人数の詳細は、市献血推進計画の3令和7年度献血実施計画をご覧ください。皆様のご協力もあり市町村主体の予定場所におかる市役所での400ミリリットル献血目標人数を70人ベースにしております。そのため、市役所での開催時の受付人数は80～85人ほど確保する必要があると考えております。

つきましては、より一層の広報の充実が必要であると考えております。具体的な広報活動は、裏面4令和7年度献血広報計画のとおり予定しております。

また、今年度9月の市役所献血から実施しております献血協力方アンケートにつきましても、令和7年度も継続して実施し、献血協力方の確保に資するエビデンスを積み上げていきたいと考えております。

(大石会長)

ただいまの議題2、議題3の説明に対するご質問がございますか。

わたしからは、市の目標値の根拠を再度教えていただきたく存じます。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。令和5年度12月時点と3月時点までの伸び率を算出し、令和6年度12月時点にその伸び率をかかて今年度の実績を算出しています。これにより、今年度の実績の概算を出しました。次に、今年度の市役所での各献血回の受付か人数を実績ベースで算出しています。千葉県推進計画では1,097名となっておりますが、市計画ではこのような試算に基づき、650名としております。

(千葉県赤十字血液センター)

県推進計画の目標値について補足させてください。昼間人口按分率でいきますと、千葉県の市町村献血目標のような数値(令和6年度:1,063名、令和7年度:1,097名)になります。市の算出目標人数は、鎌ケ谷市で献血をされた方のみであり、実際は市外で献血する方も多くいらっしゃいます。千葉県推進計画では、鎌ケ谷市は1.429パーセントとなっておりますが、千葉県内での鎌ケ谷市民の方のご協力は1.6パーセント程であり、千葉県の目標値を十分に達成していただいております。鎌ケ谷市内で目標人数を達成するには、献血バスの配車が必要になりますが、血液センターからの献血バスの配車が十分ではないので、鎌ケ谷市内だけで、目標値を達成できていないのは赤十字の責任も大きいと考えています。そこは、本当に血液センターとしても反省しなればいけないと思いますが、鎌ケ谷市での献血の際は非常に効率的に献血を実施できており、現時点で十分にご貢献いただいております。

先ほど事務局から受付人数を増やす対策としてアンカトをしていただき、より建設にご協力いただいております。アンカト結果から、次の事業につなげるといった取り組みは、他の市町村でも見られないものであり、市町村が主体でアンカトを実施していただくことで、ピンポイントの活用ができるかなと思いますので、来年度も引き続きやっていただきたいと思います。

私の手元で見ると、令和6年度の4月から12月までで献血にご協力いただいている方のうち鎌ケ谷市の方は2,803名(6パーセント)いらっしゃいます。たくさんの方に献血の協力をいただいているというのはご理解いただければと思います。隣の船橋市は10.3パーセント、11.3パーセントですが、献血ルームがあるため、その分協力しやすいという体制もあります。けれども、そういった中で、鎌ケ谷市内の状況は数字上では、常に厳しいですけれども、実態はかなりご協力をいただいているという認識でお願いできればと思います。千葉県内で献血いただいている方は、今年度は4月から12月までで17万9794人いますが、県外の方が1万7094人で約1割となっております。ほとんどは東京中心です。県外での献血が圧倒的に多くなっています。そのため、今後は、決算の方の情報をしっかり取っていきたくと思っています。今後、データとしてお示しできるように今集計に取り組んでいる最中でございます。

(大石会長)

他にご質問はございますか。

(川田委員)

はい。結果の総括の中に、鎌ヶ谷市での献血デビューというお話がありました。これはとてもすばらしいことです。献血は結局どこでやっているかわからないとか、いつやるかわからないということで躊躇します。私が(献血の)担当の時に声掛けをするんですかど、大体市役所に用事があって、その用事を急いで済ませなければならぬ。その中でも参加してくださる方がいると、本当に案内する時も嬉しい気持ちでご案内しています。

そこで、一つ提案をしたいことがあります。デビューというところに着目すると、せっかくこの献血のお知らせ(ポスター)がありますが、ここに次回以降の日程を入れていただきたくと、今日は忙しくて市役所の用事だからで済ませてしまうけれど、次回は今度いつやるというスカジュールの提示があると、きっと予定を立てていただかるのではないかと思いました。お菓子の詰め合わせ等の部分がすごく目を引くので、質問は大体この部分です。お菓子の詰め合わせがもらえるというのもすごく魅力ですが、やはりまずは日程の確保ということになると、次回以降の日程があると、より啓発できるのではないかなと思いました。せっかくデビューという、こんないいお話が出たので、デビューの方をもっと増やすために、次回の予定を記載していただきたいなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。

(渡部委員)

私は81歳ですが、献血を東京でもやっていますし、鮫洲試験場では必ずやりました。多分全体で100回ぐらい献血はやっています。その後、年齢制限で献血ができなくなりましたが、自分としては、まだできたんじゃないかなと思っています。年齢制限は今70歳ですか?今は皆若いですから、10歳ぐらい一気にとはいかないんでしょうかど、年齢を上げるというのも、この献血の場合には当てはまるんじゃないかなって今考えています。この年齢制限は、いつ決められたんですか。

(千葉県赤十字血液センター)

はい。おそらく20年近く前からの基準です。60歳から64歳までに一度献血の経験がある方について69歳まで献血をお願いできるように延長されました。実績データをみますと、個人差があるので、今おっしゃったような話というのは、現実的なものだと思います。今後、いろいろ考え方が出てきて、血液製剤の供給の必要性に応じて変わってくると考えています。実際は、血液製剤を使う方の割合は、年齢でいうと50歳以上の方が全体の85パーセントです。現段階では献血にご協力いただくのは16歳から50歳までの方が全体の80パーセントです。そこでしっかり確保するという流れでございますので、

今おっしゃった通り、血液製剤を使う方の人口が増えていけば協力できる方を増やす必要が出てくるので、いずれは議題が出てくるかと思いますが、年齢制限を引き上げるっていうところまでの大きな議論には達していない現状です。ご意見として、今お伺いさせてもらいましたので、提案できる機会に進めていければと思いますので、よろしくをお願いします。

(大石会長)

他に何かご質問ありますか。千葉県供給・献血状況という資料について説明をお願いします。

(千葉県赤十字血液センター)

令和5年度の血液製剤の需要は、令和2年度から増加傾向が続いております。今年度は86万3337単位(前年度比102.5パーセント)となります。前年度比で2.5パーセント増加しています。県内6か所の献血ルームと10台の献血バスで延べ236,025名(対前年度比101.6パーセント)の皆様にご協力をいただきました。

医療機関からの需要が高い400ミリリットル献血や成分献血について予約献血の定着がより一層の安定供給につながってきています。例えば、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、献血を遠慮されてきた企業が献血を再開することができました。そのため、血液の需要が増加する中でも、お待たせすることなく供給することができました。

年代別献血状況については、30代、40代が減少しています。千葉県では、50代以上の方に大体半分ぐらいご協力をいただいている状況です。いずれ年齢制限などもあり、50～60代は献血ができなくなってしまうため、若い世代の確保に継続的に関心を持ってもらうのは大事だと思っております。

輸血用血液製剤の供給状況は、中ほどにグラフがありますが、こちらはそれぞれ必要数(計画)と供給量(実績)を示しています。前年度までの実績などに基いて計画を立てますが、赤血球製剤と血漿製剤は、ほぼ計画通りの医療機関要請があって供給できました。血小板製剤については、令和5年度は計画よりも多い数字の需要がありました。一方で、それにこたえられるような確保をしっかりとらせていただいているので、血液を供給できている状況です。交通事故による血液供給の報道をされる方が多いのですが、やはりがんの患方が増えたりとか、高齢になったりするとそういう病気になりやすくなるので、そのような方々への血液供給が多い現状です。

「鎌ヶ谷市の献血状況について」という資料をご覧ください。採血種類別献血方数の推移について、令和3年度から5年度は、千葉県は順調に全体的な採血方数が増えました。鎌ヶ谷市は、令和4年度に減少しましたが、令和5年度は採血方数を増やしていただいております。また今年(令和6年)度は令和5年度の値をすでに超す見込みとなっております。

市役所献血での実績をご覧ください。白い棒グラフが受付か方数で、青い棒グラフが実際の採血方数、折れ線グラフが1回平均の採血方数になります。関係団体の皆様や市での事前告知や周知に力を入れていただいたおかげで、令和

6年度は12月実施分までで1回あたり68名の採血ができております。1回の開催日で10人近く採血方数を増やしていただいている現状です。つきましては、引き続きご協力いただきたいと思います。

最後に「市役所会場別献血の実績」となります。市役所本庁の1階ロビーで献血を実施した回と総合福祉保健センターで実施した回では、前方に比べて後方の方が、受付人数が15～20名近く少ないことがわかります。市役所での実施に比べて、場所がわかりにくく目立ちにくいいため、献血方数が少なくなってしまうと思います。次回3月4日は総合福祉保健センターでの実施になりますので、周知について皆様のお力をより一層お借りしたく存じます。私の方から以上です。どうもありがとうございました。

(大石会長)

他にないようでしたら、議題1、2、3すべてご承認いただいたということよろしいでしょうか。

本日の議事はすべて終了いたしました。最後に事務局から何かありますか。

(事務局)

今年度は、1回1回の献血の機会を大切に積み重ね、実績も大きくのばすことができました。また、鎌ヶ谷市赤十字奉仕団及び鎌ヶ谷飛翔ライオンズクラブ様が県の献血協力団体顕彰をお受かになる等、献血へのご協力を可視化することができました。献血推進主管課としても、今後も様々な工夫をしながら献血の推進体制を構築してまいりたいと考えておりますので、ご多忙のところ恐れ入りますが、次年度も皆様方より一層のご協力を賜りたく、よろしくお願いたします。

(大石会長)

全体として何かございますでしょうか。特になければ、以上で本日の協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証し署名する。

署名人 皆川 洋子

署名人 佐々木 和則